
RL78/G14、R8C/36Mグループ

R01AN4305JJ0100

Rev.1.00

R8CからRL78への移行ガイド：リセット機能

2018.05.09

要旨

本アプリケーションノートでは、R8C/36Mグループのリセット機能から、RL78/G14(64ピン製品)のリセット機能への移行に関して説明します。

対象デバイス

RL78/G14, R8C/36Mグループ

本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合、そのマイコンの仕様にあわせて変更し、十分評価してください。

目次

1. R8CファミリからRL78ファミリへの移行方法.....	3
2. RL78/G14とR8C/36Mグループの相違点.....	4
2.1 リセット機能の相違点.....	4
2.1.1 ハードウェアリセットからの移行.....	5
2.1.2 パワーオンリセットからの移行.....	5
2.1.3 電圧監視0リセットからの移行.....	6
2.1.4 ウォッチドッグタイマリセットからの移行.....	6
2.1.5 ソフトウェアリセットからの移行.....	6
2.2 レジスタの対比.....	7
3. 関連アプリケーションノート.....	8
4. 参考ドキュメント.....	8

1. R8C ファミリから RL78 ファミリへの移行方法

R8C/36Mグループのリセット機能をRL78/G14のリセット機能で実現する方法について説明します。

表1.1にR8C/36Mグループのリセット機能を示します。

表1.2にRL78/G14のリセット機能を示します。

表1.1 R8C/36Mグループのリセット機能(概要)

R8C/36Mグループのリセット機能	
リセットの名称	要因
ハードウェアリセット	RESET 端子の入力電圧が“L”
パワーオンリセット	VCC の上昇
電圧監視 0 リセット	VCC の下降(監視電圧：Vdet0)
ウォッチドッグタイマリセット	ウォッチドッグタイマのアンダフロー
ソフトウェアリセット	PM0 レジスタの PM03 ビットに“1”を書く

表1.2 RL78/G14のリセット機能(概要)

RL78/G14のリセット機能
RESET 端子による外部リセット入力(ロウ・レベル入力)
ウォッチドッグ・タイマのプログラム暴走検出による内部リセット
パワーオン・リセット(POR)回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット
電圧検出回路(LVD)の電源電圧と検出電圧の比較による内部リセット
不正命令(FFH の命令コード)の実行による内部リセット
RAM パリティ・エラーによる内部リセット
不正メモリ・アクセスによる内部リセット

R8C/36Mグループには 5 種類、RL78/G14には 7 種類のリセット機能があります。

表1.3にリセット機能の対応表を示します。

表1.3 リセット機能対応表

R8C/36Mグループ	RL78/G14
ハードウェアリセット	RESET 端子による外部リセット入力 (ロウ・レベル入力)
パワーオンリセット	パワーオン・リセット(POR)回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット
電圧監視 0 リセット	電圧検出回路(LVD)の電源電圧と検出電圧の比較による内部リセット
ウォッチドッグタイマリセット	ウォッチドッグ・タイマのプログラム暴走検出による内部リセット
ソフトウェアリセット	— (ただし、不正命令(FFH の命令コード)の実行による内部リセットで類似のリセットを発生することが可能です。(注 1))

注 1. 不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

2. RL78/G14 と R8C/36M グループの相違点

2.1 リセット機能の相違点

表2.1にR8C/36MグループとRL78/G14のリセット機能に関する相違点を示します。

また、リセット機能の詳細、リセット後の SFR(Special Function Register)の状態および電気的特性の相違点については、各製品のユーザーズマニュアルを確認してください。

表2.1 リセット機能に関する相違点(概要)

項目	R8C/36Mグループ	RL78/G14
リセット解除後の CPU クロック	低速オンチップオシレータ (分周なしクロック)	高速オンチップ・オシレータ(オプション・バイトで選択したクロック)
リセット解除後のプログラム・カウンタ(PC)の値	リセットベクタ (0FFFEh~0FFFCh 番地)の値	リセット・ベクタ・テーブル (00000H と 00001H 番地)の値
リセット解除後の RAM の値	不定	不定
リセット解除後のプロテクト状態(注 1)	PRCR レジスタによる 重要レジスタのプロテクト：有効	SFR ガード機能：無効(プロテクト解除)
リセット解除後の各周辺ハードウェアへのクロック供給(注 2)	許可	禁止

注 1. プロテクト機能の有効/無効を制御するビットは、R8C/36MとRL78/G14で論理(設定値)が逆になります。設定に誤りがあると正しくプロテクトされないので注意してください。

注 2. 各周辺ハードウェアへのクロック供給の許可/禁止を制御するビットは、R8C/36MとRL78/G14で論理(設定値)が逆になります。設定に誤りがあると周辺ハードウェアが動作しないので注意してください。

2.1.1 ハードウェアリセットからの移行

RL78/G14でR8C/36Mのハードウェアリセットと同等の動作をさせる場合は、「RESET 端子による外部リセット入力(ロウ・レベル入力)」を行います。

表2.2にR8C/36MグループとRL78/G14のRESET 端子によるリセットを示します。

表2.2 R8C/36MグループとRL78/G14のRESET 端子によるリセット

項目	R8C/36Mグループ	RL78/G14
電源が安定している場合のリセット有効条件	(1) RESET 端子に“L”を入力する (2) 10 μ s 待つ (3) RESET 端子に“H”を入力する	(1) RESET 端子にロウ・レベルを入力する (2) 10 μ s 以上待つ (3) RESET 端子にハイ・レベルを入力する
電源投入時のリセット有効条件	(1) RESET 端子に“L”を入力する (2) 電源電圧を「推奨動作条件」を満たすレベルまで上昇させる(注 1) (3) 内部電源が安定するまで「電源投入時の内部電源安定時間(td(P-R))」待つ(注 2) (4) 10 μ s 待つ (5) RESET 端子に“H”を入力する	(1) RESET 端子にロウ・レベルを入力する (2) 電源を投入し、「AC 特性」の動作電圧範囲内の期間で 10 μ s 以上ロウ・レベルを継続する(注 3) (3) RESET 端子にハイ・レベルを入力する

注 1. 「推奨動作条件」は、R8C/36M グループ ユーザーズマニュアル「電気的特性」章を確認してください。

注 2. 「電源投入時の内部電源安定時間(td(P-R))」は、R8C/36M グループ ユーザーズマニュアル「電気的特性」章の「電源回路のタイミング特性」の表を確認してください。

注 3. 「AC 特性」の動作電圧範囲は、RL78/G14 ユーザーズマニュアル「電気的特性」章を確認してください。

2.1.2 パワーオンリセットからの移行

RL78/G14でR8C/36Mのパワーオンリセット機能と同等の動作をさせる場合は、「パワーオン・リセット(POR)回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット」を行います。POR を使用する場合、電圧検出(LVD)回路(R8C/36Mグループでの電圧監視 0)を併用する必要があります。LVD の動作モードの設定については、オプション・バイトの 000C1H/010C1H 番地の LVIMDS1、LVIMDS0 ビットを“11b”(リセット・モード)にしてください。

また、詳細については下記のアプリケーションノートを参照してください。

- アプリケーションノート RL78/G14、R8C/36M グループ
R8C から RL78 への移行ガイド：パワーオンリセット機能および電圧検出回路 (R01AN1352)

注 RL78/G14の「パワーオン・リセット(POR)回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット」とR8C/36Mのパワーオンリセット機能では、電圧検出レベルが異なります。RL78/G14において、R8C/36Mと同じ電圧検出レベルを設定することはできないため、システムにあわせてLVDの電圧検出レベルを設定し、十分検証してください。

2.1.3 電圧監視0リセットからの移行

RL78/G14でR8C/36Mの電圧監視0リセットと同等の動作をさせる場合、詳細については下記のアプリケーションノートの箇所を参照してください。

- アプリケーションノート RL78/G14、R8C/36M グループ
R8C から RL78 への移行ガイド：パワーオンリセット機能および電圧検出回路 (R01AN1352)
「リセット・モード」章

2.1.4 ウォッチドッグタイマリセットからの移行

RL78/G14でR8C/36Mのウォッチドッグタイマリセットと同等の動作をさせる場合、詳細については下記のアプリケーションノートを参照してください。

- アプリケーションノート RL78/G14、R8C/36M グループ
R8C から RL78 への移行ガイド：ウォッチドッグタイマ CC-RL (R01AN3060)

2.1.5 ソフトウェアリセットからの移行

RL78/G14では、R8C/36Mグループのソフトウェアリセット(PM0レジスタのPM03ビット)に相当する機能が存在しません。RL78/G14で任意のタイミングでリセットを実行するには、以下の手段があります。

- 不正命令(FFHの命令コード)の実行による内部リセットの発生(注1、注2)
- ウォッチドッグ・タイマ使用時、リフレッシュコード以外の値でリフレッシュを実行する(WDTEレジスタに"ACH"以外の値を書き込む)ことによる内部リセットの発生

注1. 不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

注2. リセット・コントロール・フラグ・レジスタ(RESF)でリセット要因(不正命令の実行による内部リセット)を判別することは可能です。ただし、内部リセットを意図的に発生させたものか、内部リセットが異常で発生したかを判別することができなくなります。このことがシステムで問題とならないことを確認してください。

2.2 レジスタの対比

表2.3にR8C/36MグループとRL78/G14のリセット機能のレジスタ対比表を示します。

表2.3 レジスタの対比

設定項目	R8C/36Mグループ	RL78/G14
ソフトウェアリセットの実行	• PM0 レジスタ PM03 ビット	—
電源が投入されたとき／ 動作中にリセットが発生した ときのリセット処理判定	• RSTFR レジスタ CWR ビット	—
ハードウェアリセット 検出フラグ	• RSTFR レジスタ HWR ビット	—
ソフトウェアリセット 検出フラグ	• RSTFR レジスタ SWR ビット	—
ウォッチドッグタイマ リセット検出フラグ	• RSTFR レジスタ WDR ビット	• RESF レジスタ WDTRF ビット
不正命令の実行による 内部リセット判定フラグ	—	• RESF レジスタ TRAP ビット
RAM パリティ・エラーによる 内部リセット判定フラグ	—	• RESF レジスタ RPERF ビット
不正メモリ・アクセスによる 内部リセット判定フラグ	—	• RESF レジスタ IAWRF ビット
電圧検出(LVD)回路による 内部リセット判定フラグ	—	• RESF レジスタ LVIRF ビット

—：該当するレジスタはありません。

3. 関連アプリケーションノート

- RL78/G14、R8C/36M グループ
R8C から RL78 への移行ガイド：パワーオンリセット機能および電圧検出回路 (R01AN1352)
- RL78/G14、R8C/36M グループ
R8C から RL78 への移行ガイド：ウォッチドッグタイマ CC-RL (R01AN3060)

4. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル

- RL78/G14 ユーザーズマニュアル ハードウェア編
(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)
- R8C/36M グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編
(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)
- テクニカルアップデート
(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

学習ガイド

- RL78 ファミリ用 統合開発環境 CubeSuite+への移行
(オンチップ・デバッグ編) R8C、M16C から RL78 への移行 (R20UT2150)
- RL78 開発環境移行ガイド R8C および M16C から RL78 への移行
(コンパイラ編) (High-performance Embedded Workshop, NC30WA→CS+,CC-RL) (R20UT2088)
- コード生成プラグイン学習ガイド (R20UT3230)

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問い合わせ先

<http://japan.renesas.com/contact/>

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2018.05.09	—	初版発行

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。

外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

【注意】リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。

リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

同じグループのマイコンでも型名が違っていると、内部ROM、レイアウトパターンの相違などにより、電氣的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が異なる製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品、本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、
金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

- 当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。
6. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 10. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
 11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 12. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.4.0-1 2017.11)



ルネサスエレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス株式会社 〒135-0061 東京都江東区豊洲3-2-24（豊洲フォレシア）

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：<https://www.renesas.com/contact/>